

令和 7 年度（2025 年度） 第 1 回柏崎市歯科保健推進会議 会議報告

開催日時 令和 7 年（2025 年）8 月 21 日（木）13：30～15：30

会 場 柏崎市健康管理センター3 階 集団指導室

議 事

- (1) 第 2 次歯科保健計画の概要（意見なし）
- (2) 令和 6 年度（2024 年度）「第 1 回食育推進会議」及び「第 2 回健康づくり推進会議」の報告（意見なし）
- (3) 令和 6 年度（2024 年度）事業報告及び令和 7 年度（2025 年度）事業計画について（意見なし）
- (4) 健康みらい柏崎 21（素案）について（意見なし）
- (5) 第三次歯科保健計画（素案）について

○主な御意見

【全てのライフステージ】

- ・取組の順序を整理してはどうか。
- ・1 人当たり歯科診療費の推移について、診療費が上がるとむし歯が多いと捉えられやすい。具体的な補足をお願いしたい。
- ・内科は生活習慣病などで受診するが、歯科は問題が起こらないと行かない。かかりつけ歯科医を持ち、年に数回メンテナンスすることが大切。困っていなくても、歯科医院を受診するよう啓発して欲しい。
- ・「口腔ケア」には、歯や口の中を清潔にするだけでなく、咀嚼や嚥下機能の維持向上、口腔内の健康維持増進など全身の健康維持向上を目指すもので、歯みがきをするだけでなく、様々な要素を含みケア全般を示している。歯みがきは大事だが、口腔ケアという言葉が行動目標に入ることはいいと思う。
- ・全てのライフステージの取組のところに「お口の中を清潔に保ちましょう」と掲げ、ライフステージごとに入れ歯を毎日洗うことや、デンタルフロス・歯間ブラシを使うことなどをいれてはどうか。
- ・障がいのある方にも、健診や口腔衛生管理の機会を増やすよう検討して欲しい。
- ・災害への備えが計画書に記載されたことは非常にいいことだと思う。備えが重要である。
- ・歯周病の管理が出来ているかどうかで、大きな病気の予後が違うことを実感している。
- ・妊婦の歯科健診受診率が低い。
- ・障がい福祉施設に歯科衛生士や歯科医師が、健診や訪問に来てくれる機会があるといい。

【乳幼児期】

- ・乳幼児期、学童期・思春期では、保護者に歯や口腔の健康に興味を持ってもらうことが

大切。

- ・離乳食の時期が大事ではないか。よく噛める子どもとよく噛めない子どもがいる。歯が生える前の離乳食の時から段階を踏んでいくと、健康な歯、よく噛める子どもに繋がるので、強化して欲しい。
- ・仕上げみがきの実施率が低い。保護者へ意識づける方法はないか。
- ・家庭で保護者が子どものことをしっかりケアしていけば、子ども達の指標も良くなるのではないか。

【学童期・思春期】

- ・3歳児のむし歯の指標だけでなく、5歳・17歳の指標も入れてはどうか。
- ・乳幼児期、学童期・思春期では、保護者に歯や口腔の健康に興味を持ってもらうことが大切。
- ・1人で複数本むし歯を持っている子が一定数いる。低学年では、乳歯のむし歯を何本も持っている子もいる。
- ・すぐ治療に行く家庭と、なかなか治療に行かない家庭が見られる。子ども達自身が知識を持っていても、歯医者に連れて行くのは保護者なため、保護者への啓発を強化できるといい。
- ・障がいがあると、より子どもの頃からのフッ化物洗口が大事になる。フッ化物洗口以外の有効な方法はあるのか。
- ・家庭で保護者が子どものことをしっかりケアしていけば、子ども達の指標も良くなるのではないか。

【青年期・壮年期】

- ・歯科医院から定期的なアクションがあれば、受診する気持ちになるのではないか。
- ・どこの企業でも健康診断をしているので、一緒に歯科健診をすることができないか。

【高齢期】

- ・高齢期の取組に「家族ができる簡単な口腔ケアを実践しましょう」とあるが、家族がお口のケアや入れ歯を洗うことは難しい。口腔ケアが必要な方に対しては介護者が、障がいなど支援が必要な方に対しては支援者としてはどうか。
- ・高齢期では、食べることや口腔内の健康が命に関わってくる。認知症の方への歯科治療は難しく、支援も難しい。認知症の方への支援がないことが気になった。
- ・認知症の方が歯科受診するにあたり、家族の了解を得る際に、食べられるなら受診しなくてもいいと考える家族もいることから、家族への啓発ができるといい。
- ・コツコツ貯筋体操では、最後にお口の体操をしている。お口の体操は一生懸命しているが、お口のケアについては関心がない人が多い。